



畑の面積 : 3,25 ha

Average age of the vines : 20 years old
 Average annual production : 10 000 btls
 Grape Variety : Chardonnay

2013年はまたしてもブルゴーニュのヴィンヤールたちに手厳しい試練を与える年となりました。

醸造所に健康なブドウを持ち帰るためには、シーズン中、べト病とウドンコ病との熾烈な戦いを強いられました。5月という季節を迎えても月間通じて寒々とした雨に見舞われ、そのことが大きく起因して収穫が遅れました。私たちのドメヌでは10月6日にヴォーヌ・ロマネの畑からブドウを摘み始め、17日にオート・コートで終わりました。この年より遅い収穫年といえ、1978年まで記憶を遡らなければなりません。

開花後期の天候の崩れが原因で花振るいが多く見られ、殆ど全ての房がミルランダージュとなって小さな粒を纏いました。そのため、平年と比べ収量は30~40パーセント落ち込みました。

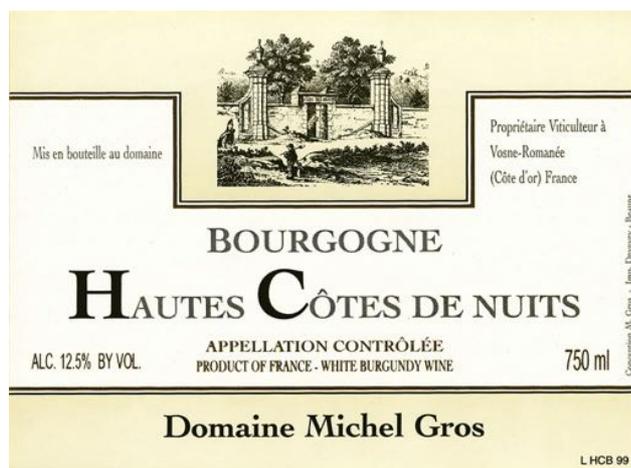
しかし、このミルランダージュこそがヴィンテージを救うことになったのです。

7月に暑い日が差した以外はパツとしなかった夏の不順な天候下でも、負担の少ない小ぶりのブドウ房はパーフェクトに熟していってくれました。

粒が小さく隙間があるミルランダージュの房でなければ、収穫前に続いた数日の雷雨でボトリティス菌が蔓延し、やっと目の前にした収穫物が壊滅していたかもしれせん。

そして、果汁の少ないミルランダージュだからこそ実現した濃い色。結実不良により種が無かったり種のサイズが小さかったりすることが幸いた、タンニンの突出しないバランスがとれた自然の凝縮。

成熟が遅れ、比較的冷涼な気象状況のもとでブドウが熟成の最終段階を遂げた為、誕生したワインは濃いフルーツのアロマを丸ごとフレッシュに蓄え、夫々のテロワールの個性をくっきりと描いています。



酸のレベルが高いことはワインの長熟性を示し、一方、低いpHで証明されたこの高い酸味は、タンニンがすでに溶け込んでいるリッチなテクスチャに抱擁され、テイasting上ではさほど目立たないのです。

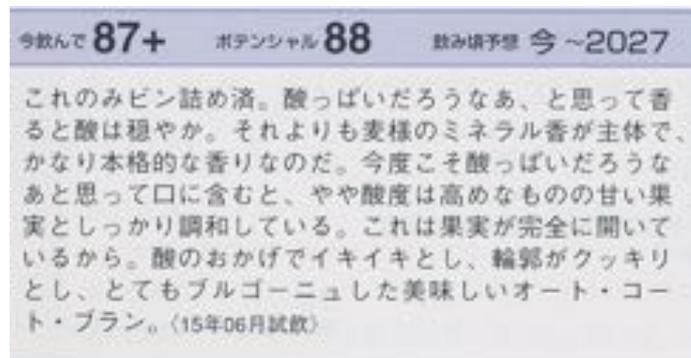
結果として、2013年のワインはすでに誘惑的な魅力を呈し、ハーモニー、バランス、鮮烈な強さと緻密なアロマを持ち合わせています。ポテンシャルが高く、言うなれば1993年に類似する特徴があり、1993年といえ今日飲んででもなお素晴らしい有望なヴィンテージなのです。

プレスレビュー



Bourgogne Aujourd'hui N°125 – October 2015

Expressive and promising nose with citrus notes and well-integrated oak. Beautiful substance on the palate with minerality. 16.5 / 20



Real Wine Guide N°51 – Autumn 2015